委員会報告（閉会中の調査）

木質バイオマス発電所

総務産業常任委員会

森林保全に貢献

8月5日(木)、総務産業常任委員会は東御市で木質バイオマス発電事業をスタートさせた信州ウッドパワー㈱の視察研修を行った。この発電所は、地球温暖化防止への貢献と共に、東信地域の林業振興、地方創生を促し、事業者と地元の間にウインウインの関係を築くことを企業使命としている。同社が市より購入した羽毛山工業団地内に約30億円を投資して木質バイオマス発電所を建設し、同社子会社の信州ウッドチップ㈱が地域の森から調達する原木を原材料に、切削チップ化し、それを燃料にして、出力1990kwの発電装置を稼働させている。発電された電力は中部電力㈱へ売電を行っている。

また、年間の発電量は約1350万kwhを目標としている。売上高は5億4千万円を見込んでおり、燃料となる原木の購入量は年間3万トン、購入額は1億5千万円を予定している。

なお、この発電所で使用する原材料は間伐材等未利用材や松くい虫被害木で林業事業者、森林組合や山林所有者から森林保全育成に貢献できる材料を基本に調達している。

施設全体は近代的で周囲の景観にも配慮されている。新時代に向け使命を持った発電所と感じた。

（朝倉　国勝）

上山田不燃物処理場

社会文教常任委員会

材質ごとに選別

社会文教常任委員会は7月14日(水)に閉会中調査として、本年2月に寄付を受けた坂城町上平の「旧久保家住宅」と千曲市上山田にある「葛尾組合不燃ごみ及び資源ごみ処理施設」の現地視察を行った。

旧久保家住宅は、江戸時代末期から養蚕業を生業として大きな財をなした。敷地は約4900㎡と広く、敷地内の建物は12棟ある。真っ先に目に付いたのは、入り口付近の大きな長屋門であった。

この長屋門は、慶応3年(1867年)の建築と推定されており、町内にある建築物としても大変古く、価値の高い文化財であると考えられる。敷地内にある主屋等の建造物を見ると、当時の地位や財力が非常に高かったことがうかがえる。

今後町では、利活用について検討していく予定である。

次に葛尾組合不燃ごみ及び資源ごみ処理施設を視察した。不燃ごみの搬入量は年々増加傾向であり、住民の分別収集に対する意識の高まりなどが増加の要因として考えられると職員から説明を受けた。昭和45年に建設された施設は老朽化が進み、一昨年の台風19号では、浸水し機械が破損するなどの被害に見舞われた。

坂城町、千曲市にとって大事な施設であり、今後、移設等を含めて対応していく必要性があると感じた。

（大日向　進也）